

# CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2011年6月21日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



## 感情の論理 vol.52 「ミッションと情熱の存在」

業務の中身は「やりがいのあるもの」ばかりではありません。辛くつまらない「作業」もあります。しかし、同じ作業なら、少しでも楽しく行いたいものです。

清掃業務は、すべてのビジネスにおいて重要で、かつ「つまらない作業」の代表です。誰もが避けられるものならば避けたい業務です。だからこそ、イエローハットの創業者、鍵山秀三郎氏が創設した「日本を美しくする会」のように、掃除が人格形成に役立つという発想にもつながるのでしょう。

その清掃活動を生き活きと楽しんでやっている会社があります。それも、そのほとんどがアルバイトにも関わらず。ご存知のディズニーランドです。ランド内には多くの清掃係（キャスト）が配置され、ゴミ一つ落ちていない環境を提供しています。しかし、考えてください。一日中、公園の掃除を命じられたら、嫌になりませんか？サボりたくなるのが人情です。しかし、ディズニーランドのキャストの中には、そんな「当たり前のアルバイト」は一人もいません。全てのスタッフが「つまらない業務」を笑顔でこなしています。

ある時、小さな女の子がキャストに質問しました。

「何しているの？」

そのキャストはこう答えたそうです。

「ここに来る皆さんは、楽しい思い出をたくさん作っているよね。私は、パークに落ちている思い出の欠片（かけら）を拾っているの」

ディズニーランドのミッションは「すべてのゲストにハピネスを提供する」です。それがお題目ではなく、末端のアルバイトにまで浸透していることを表す逸話です。

では、どうしてそんな対応が可能なのでしょう。ディズニーランドでは新人のアルバイトを教育するトレー

ナーもアルバイトです。そのトレーナー達が、研修にやって来る新人達にゲストを迎えるのと同じ笑顔、同じ態度で接するのです。背景には「人は自分が扱われたように人を扱う」という考え方があります。大切に扱われたアルバイトは「先輩のような人物になりたい」と思い、ゲストや後輩を大切に扱うようになります。「すべてのゲストにハピネスを提供する」の「すべて」にはキャストも含まれています。それが1955年にカリフォルニアにディズニーランドがオープンして以来の伝統です。

面白いのは、トレーナーになっても金銭的対価（昇給）はありません。それでもトレーナー達は「後輩が成長していく姿を見るのが嬉しい」と言います。その喜びがトレーナーの対価です。そのため、優秀なキャストが皆、トレーナーになるのではなく、必ず「人を育てることに喜びを感じるか」という質問にイエスと答えた人だけをトレーナーにしています。ディズニーランドでは情熱の連鎖・伝播が教育の根幹を成しています。

そうした情熱で育てられたキャストは、嬉々として清掃業務を遂行します。

塾の中には、清掃だけではなくつまらない業務が多いものです。それを生き活きとこなすことができるかどうかは、ミッションと情熱の存在にかかっています。なぜなら、人は感情の動物だからです。あなたも、最も嬉しい瞬間を聞かれて「給料日」と答えることはないはず。生徒、保護者から感謝された時」と答えますよね。人はパンのみに生きるに非ず…お金で「生き活きと掃除するスタッフ」を育てることはできません。

## 第4回 教科書の内容、全部学習できるの？

小学生の新しい教科書の使用が始まって、早3ヶ月が経過しました。みなさまの地域の様子はいかがでしょうか？新しい教科書の影響がいたるところで出ていると耳にします。来年は中学生の教科書が新しくなるので、今からいろいろと準備はしておきたいところです…。

さて、今回は夏期講習の生徒募集と絡めて、「教科書の内容は全部学習できるの？」を説明していきます。

まず結論から言いますと、「公立小中学校の授業では、なんとか教科書の重要どころだけでも学習してみせます！」というところです。。

新しい教科書は、ゆとり教育のころと比べて約1.4倍の分厚さになりました。このことは学校の先生にとって、間違いなくピンチな状況です。ただ、その分、学校の授業時間数が増えていることも事実です。一見、バランスが取れていそうな感じもしますが…。

私の友人である小学校の先生に直接話を聞いてみると、こんな答えが返ってきました。

「前よりも時間が足りない!」

さらに続けて、「新しい教科書になって、1学年で教える内容が増えたことはとてもいいことだと思う。しかし、新学習指導要領の命題である『生きる力』の学習指導法を考えるので精一杯だ。計算一つとっても、答えや解き方をすぐに教えるのではなく、毎回『なぜこうなるのか考えてみよう』と生徒を誘導するのはとても難しい。しかも、若い先生自体がゆとり教育世代なので、指導する感覚がつかみにくい。」と言っていました。

たしかにその通りだと思います。毎回、『なぜ?』を授業で進めていると、科目の内容の進度は遅れがちになります。新しい内容の授業をするたびに、生徒が興味を持つような題材を持って来るなど、さまざまな工夫が先生に要求されています。授業準備で精一杯になる状況もよくわかります。。

そうなることを踏まえてかどうかわかりませんが、文部科学省の教科書課長は、「公立の学校は教科書で教え、

必ずしも教科書の内容をすべて学習する必要はない」と発表しています。つまり、場合によっては、教科書の内容はすべてできなくてもよいと認めています。先生によっては、教えるべき内容と教えなくてもよい内容を現場の判断でしてしまう可能性があります。つまり、地域によっては、教えていない内容が存在することになります。しかも、先生の教え方次第では、勉強のできる生徒とできない生徒がスパッと二極化してしまいます。

いずれ、「あのA小学校の先生はとても良いらしい…。それに比べて、うちのB小学校はいまいちですわ…。」といったような保護者の声が聞こえてきそうです。。

…となると、塾として今回の夏期講習が目指すべき方向性の一案として。。

公立小学生コースがある塾では、『復習の夏。予習の夏。すべてを教えます!』といった感じで、教科書の復習だけでなく、次につながる予習内容も多く取り入れるのも一つの方法です。苦手科目単元別にコースを設けるのもいいでしょう。

他に、学校の授業でも取り入れられている体験学習を夏期講習に挟むのもいいでしょう。理科実験、社会見学、新聞作成、詩や短歌・俳句大会、計算大会、漢字大会、地元の夏祭り参加といったようなことです。

塾にとっては、学校の指導力が落ちるであろういまこそ、塾の指導力をアピールする必要があります。塾の原点に戻る夏期講習になるかもしれませんね…。

私見ですが、現在、公立高校入試は暗記偏重型にあり、さらに大学入試ではもっと丸暗記型になっています。しかし、この新指導要領を期に、入試そのものの傾向がP I S A型『思考力』重視になる可能性もあります。暗記も重要ですが、国語力（文章表現力・読解力）の向上も取り入れていくことも大切かと思えます。

もう梅雨ですね。季節はじめじめしますが、気分はからっといきたいものです。

今回は、「詰め込み教育はダメなのか？」を説明していきます。では、また。。

ほとんどの塾が個人経営から企業化され、組織として成熟して大手塾となっているが、継承問題は例外なく深刻であり、最優先課題であるにもかかわらず、解決しきれない問題も孕んでいます。各地の論客である経営トップや幹部の方々に、継承問題について取材しました。都合上、匿名とさせていただきます。

### ■ お金の支援よりも「心のエール」が大事か

——「東日本大震災」についてはご心配でしょうね。

被災地には多くの知人と友人がおり、皆さんご苦労されておられる。もう大きな余震も収束したかと思っていたら、また震度5以上の余震があったり、原発事故による放射能汚染も情報開示不足で、今になって高い放射能汚染のニュースが流れたり、日本という国は情けない限りです。私たちにできることなら何かやっていきたい。支援というよりも心のこもったエールを送り続けたい。

何か月も我慢してきた避難所の人たちは、『飼い殺し』状態で、食べて寝て、余震の不安という日々が続いてきたから、数万円の見舞金を持っていても、中には『こんなはした金・・・』と極度にイライラして言う人もいます。だから大切なことはお金じゃないんだ。彼らだって自分が何を口走っているのか自分で理解できていないのかもしれない。それだけ辛い体験をしているということを我々が理解しなければいけないのだ。

### ■ つくなら大嘘だ

——継承問題について塾長のお考えをお聞かせください。

代表権を渡す、銀行のハンコを渡すことが継承かといえば、それはそうなのだが、それで社員を全て掌握できるのかといえば無理だ。前任者でさえ無理だったことを後任者がすぐにできるわけがないからだ。

新米の経営者が心がけるべきことは簡単だ。嘘はつかないこと、つくのであれば皆が思わず笑うような大嘘だ。それと知らないことは誰かれ構わずに聞くことだ。ただしリーダーは聞き上手なだけでは駄目だ。時には『一步先を行く人だ』と思わせること。それには、つねに本を読み、相手構わず話をする事。

継承の継の字を見てごらん。先代が築いた財産を運ぶ能力が無ければ駄目だという意味がある。継ぐのは権利でも義務でもない。その能力を磨いて、自分の会社の財産を運ぶ姿を人に認めてもらう

ことなんだ。

### ■ 以心伝心を地で行け!

——継承者の人心掌握はどうすれば上手いききますか?

くどくどと何度も言わないと理解してもらえないような社員は幹部にはしない。すぐに理解してぱっと動く人間を揃えていく。存在感だけで偉そうにしてる社員はそこで終わってる。それと先輩後輩とか歳が上だ下だとこだわってばかりいる社員もそこで終わってる。

小さくまとまって賢い連中より、向学心のある人材が揃っていたほうがいい。向学心の強い人はリーダーの話す内容をより早く理解する。つまり行間まで読み解く力があるということだ。

それとさあ、金がなかったら知恵とアイデアで勝負しようとする人材を育成しないと企業として生き残れないぞ。

あとね、社員の権利だから休みくれとか賞与がどれだけか気になってしょうがないとか、仕事に集中できない人は使えない。社長がずっと休まないのなら、対抗してずっと休まないような人が幹部にならないと支えてくれないよ。そういう仕事をしてはじめて、以心伝心の関係になれるのだ。

### ■ 鏡を持って

——人を束ねる役目をする人はどのようなことに気をつければいいですか?

鏡を持ってほしい。自分の顔がそこにある。笑えば笑うし泣けば泣く。心配なら自分の顔に言って聞かせればいい。自分は欺けないから。自分自身との約束を果たすことが、つまりは夢の実現でもあるのだ。クレームが怖いと言われたら、生徒指導に熱が入り過ぎて帰宅が遅くなって親からお叱りを受けるようなクレームがいい。親に嫌がられるほどの情熱で生徒を教えていれば、たとえクレームがきても恥ずかしくも怖くもないと思う。

社長だから人を使い人に指示をするだけではいけない。生徒が欲しかったら、利益を出したかったら、自分の脚で家庭訪問して、『お子さんを塾に預けてください。私に任せてください』と言うことができなければ社員はついてこない。それは駄目でもいいんだ。姿勢が大事だ。



**震災ミニバブル**

福島市の自販機会社を経営する知人が電話で語るには、「震災の特需なのだろうが、前年比 +10% の売上だ。浜の方面がほぼ全滅したのに・・・だよ。それを補って余りある特需があったわけさ」と。

原発事故の影響で、「安心して飲めるものは自販機で買うものしかない」という意識も働いたようですが、コンビニがしばらく稼働しなかったという影響も大きいようです。

仙台市でも、中古自動車や賃貸アパート、災害備蓄用品、価格の安定した貴金属などが店舗で商品として出た瞬間に売り切れてしまうという現象が続き、こちらも前年比数 10% 増の特需で、特に中古自動車では燃費の良い軽自動車やハイブリッドカーが大人気で、ネットオークションで過去に前例のない高値となっています。

今後しばらくして、数兆円規模といわれる国の被災地支援金がばら撒かれると更なるバブル景気が踊る可能性は高いと言われています。

しかし・・・堅実な経営者たちは「その反動は怖い・・・」と口々に言います。すでに絶好調の企業と、その真逆で、徹底した不景気に落ち込んだ企業との格差は拡大中です。本格的な被災地支援が始まれば、その格差はさらに広がる可能性が高いわけです。

観光地が敬遠されていて倒産や廃業が相次いでいる裏側で、使われるべくして個人のお金は消費されているのです。

**気が付いたら仕事がない**

今原発事故に関連して「人手が足りなくて、大阪のドヤ街に特命を受けた担当者が密かに入り、日給 7 万円で手当り次第に作業員を募った」という噂が流れましたが、「高額の日給に応募した男たちに行先は知らされなかった」とも言われています。

ちなみに被災地からかなりの遠隔地である大阪においても、写真家やデザイナーに依頼する仕事が激減したと知人から連絡がありました。こうしたことを氷山の一角とすれば、全国的

に相当の経済的ダメージがあると想像されます。今後も「消費者動向」「受験動向」など油断はできません。

**真のリーダー不在なのに元首相は数多・・・**

現在、衆参両議院には五人以上の首相経験者が犇（ひし）めいています。引退した人も含めれば八人以上になると思いますが、「真のリーダー」として国政を任せることのできる政治家は果たして存在するのでしょうか？

アジアの最果てにあるシンガポールでは、資源のほとんど無い狭い国土とわずかな人口ですが、子供たちの教育については他国の追随を許さないほど質が高く内容も充実しています。小学校低学年から英才コースを設けたり授業のほとんどを英語で行ったり・・・日本とは比べ物にならないほど教育の大切さを国民が理解しているのです。

香港の知人よれば、香港の数倍、シンガポールでは口コミで評判が広がるのが早いそうです。どちらでも鮭屋が繁盛していましたが、今回の原発事故により客が離れるのも戻るのも早かったそうです。

国民の意識が高く、情報交換のツールも発展している香港やシンガポールでは、リーダーも半端なレベルでは蹴飛ばされてしまいます。つまり、日本でも国民一人ひとりのレベルを高めなければ、国民を軽視したリーダーしか存在しないということにならないでしょうか？ 要するに教育レベルを高めるしかないのです。学校の教師には指導力はあってもリーダーになれるような人はいないと言われます。まず、塾ではそういうことを言われないようにしていくべきでしょう。目指すは「あの塾はリーダー教育もできる」と顧客から言われるようにすることです。